

ウオダス 漁海況速報 No.1431

発行日 平成 17 年 8 月 16 日 <http://www.applenet.jp/aosui/>
 発行 青森県水産総合研究センター TEL 0173-72-2171 FAX 0173-72-2778
 住所 〒038-2731 青森県西津軽郡鰺ヶ沢町大字赤石字大和田39-5

8月のウオダス発行日

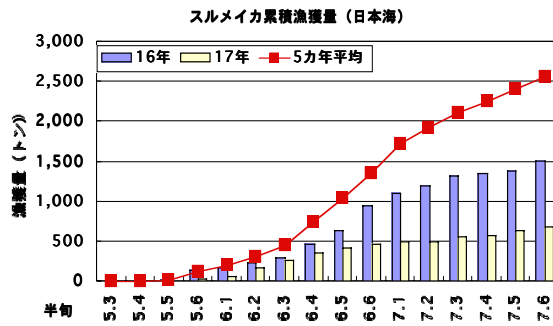
日	月	火	水	木	金	土
	①	2	3	4	5	6
7	⑧	9	10	⑪	12	13
14	15	⑬	17	18	19	20
21	⑫	23	24	25	⑮	27
28	29	30	31			

○スルメイカ各海域とも前年を下回る。(ウオダス漁獲データ)
 ○大型クラゲ情報

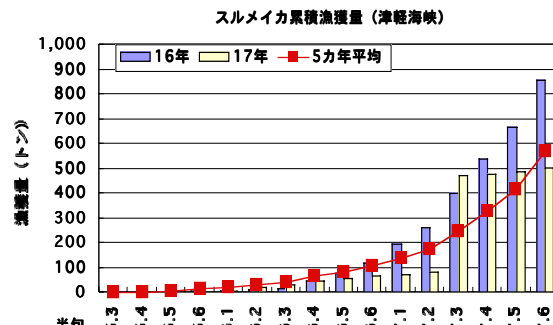
◎主要魚種の動き

1. スルメイカ (一本釣)

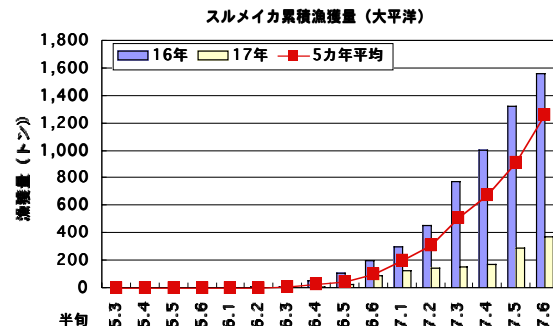
日本海は、漁期始めから前年を下回る水揚となり、7月第6半旬までの累積漁獲量が688トン、5カ年平均比27%、前年比46%と極めて不漁の昨年を下回り低調に推移した。



津軽海峡は、漁期始めから6月第4半旬まで前年並みの漁獲量であったが、6月第5半旬以降の漁獲は、低調で推移した。7月第6半旬までの累積漁獲量が502トン、5カ年平均比88%、前年比59%と不漁の昨年を下回った。

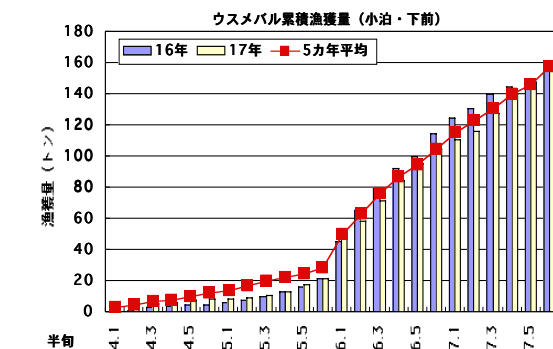


太平洋は、6月第2半旬から漁期が始まり、日本海、津軽海峡と同様、低調に推移している。7月第6半旬までの累積漁獲量が378トン(暫定値)、5カ年平均比30%、前年比24%と昨年を下回った。



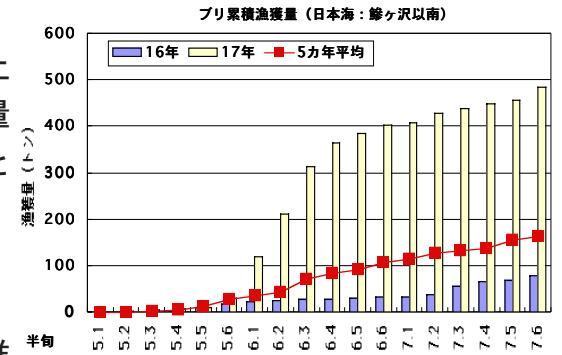
2. ウスメバル (日本海：小泊、下前、全漁法)

4月から7月第6半旬までの累積漁獲量が155トンとなり、5カ年平均比98%、前年比99%と前年並みに推移した。



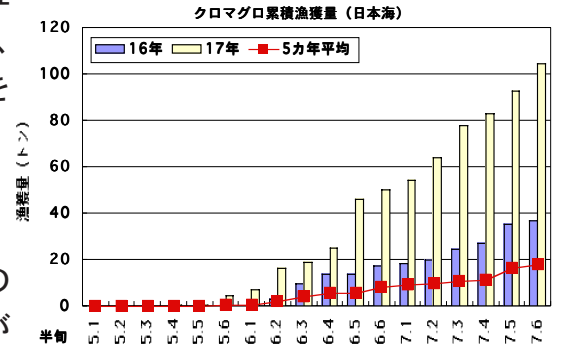
3. ブリ (日本海：鰺ヶ沢以南、全漁法)

4月第1半旬から漁獲され、漁期始めから前年を上回る水揚で推移した。7月第6半旬までの累積漁獲量が485トン、5カ年平均比295%、前年比618%と好調に推移した。



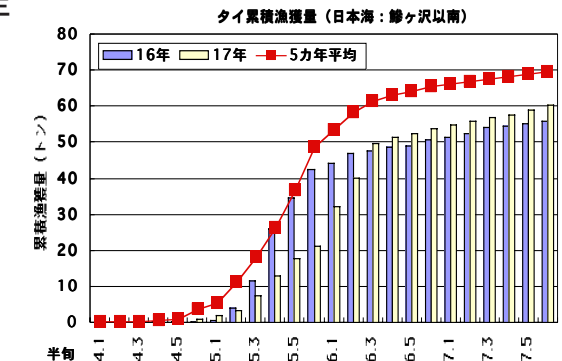
4. クロマグロ (日本海：全漁法)

5月第3半旬から漁獲され、前年を上回る水揚で推移した。7月第6半旬までの累積漁獲量が105トン、5カ年平均比580%、前年比284%と好漁の昨年を上回った。



5. タイ (日本海：鰺ヶ沢以南、全漁法)

4月から6月第2半旬まで前年を下回ったが、その後前年を上まり、7月第6半旬までの累積漁獲量が60トン、5カ年平均比87%、前年比108%と昨年並みに推移した。



◎大型クラゲ情報

8月11日、島根県沖のクラゲ対策網の試験曳で、傘径50~60cmの個体が50kg入網し、クラゲ排出口を閉じて曳網したところ1トン以上入網しています。

また、8月9日~10日、鳥取県の試験船の調査では、浜田沖で傘径50cmの個体が22~215kg入網しています。8月1日~10日、隠岐島周辺操業した大中型まき網漁船では、傘径80cmの個体が1隻当たり0~12トン入網しています。

兵庫県、京都府沿岸の大型定置網にも傘径20~70cmの個体が1~4個体入網しています。

(資料：日水研ホームページ、8月15日更新 <http://ss.jsnf.affrc.go.jp>)

太平洋の海況 (8月12～14日)

概況；沿岸水温は21℃台。

○太平洋沿岸域の表面水温 21℃台で、前回に比べ1～2度降温しました。昨年同期より2度ほど低い水温となっています。

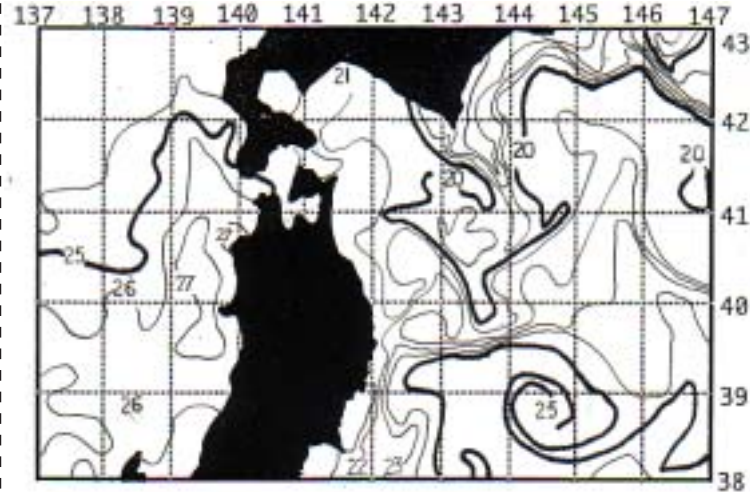
○津軽暖流の尻屋崎東方への張り出し 21℃等温線でみると東経142度10分付近までで、張り出しは前回より強くなっています。

○親潮系冷水の南下 20℃等温線でみると北緯39度50分付近までで、張り出しは前回よりやや弱くなっています。

日本海の海況 (8月12～14日)

概況；沿岸水温は25～27℃台。

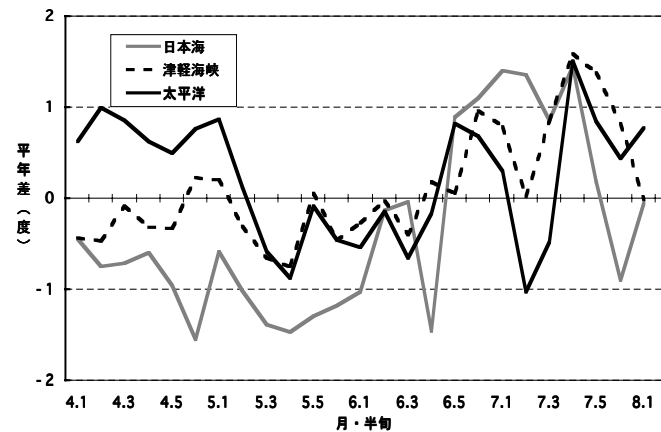
○日本海沿岸域の表面水温 25～27℃台で、前回より3～4度高くなっています。昨年同期とほぼ同じ水温となっています。



資料：(社)漁業情報サービスセンター
北部太平洋海況速報 第39号 8月15日

◎定地水温の推移について

右図は、ウオダスに掲載している沿岸定地水温の平均偏差値(平年差)を2005年4月から7月まで示したものです。日本海は、4～6月中旬にかけて低め、6月下旬から高めとなり、7月下旬から平年並みとなっています。津軽海峡は、4～6月中旬にかけて平年並み、これ以降高めとなっています。太平洋は、4月が高め、5～6月中旬が平年並み、その後、高め傾向となっています。



試験船のはなし

青森県水産総合研究センターでは現在、3隻の試験船を運航しています。

最初の試験船は当所の前身である青森県水産試験場が設立された1900年に建造された「大平丸」です。ろ付の木造船で、生簀が設けられていました。その後も建造は続けられ、最も新しい「青鵬丸」(65トン)で25隻目となります。

船の大きさをトン数でみると、記録に残っている最小は大正6年に建造された「海鷗丸」(11.6トン)で、最大は昭和53年に建造された初代「開運丸」(299.56トン)です。船質も初期の木造船から最近では鋼船に変わってきています。

明治42年に建造された「鵜(みさご)丸」(19.89トン)は大正4年10月に白銀海岸の岩礁に乗り上げて破損、廃船となっています。大正6年に建造された「海鷗丸」(11.6トン)も大正8年1月に北海道亀田郡根田内海岸の岩礁に乗り上げて破損、廃船となっています。遭難時は昼間だったため、沿岸の根田内村民に全員救助されています。

また、大正3年に建造された「斗南丸」は大正9年10月に大間東方で遭難事故を起こしています。このときには、初の犠牲者を出してしまいました。

なかには、「岩木丸」(54.43トン)のように青森築港所属汽船「鶴見丸」を移管、改造の上使用された船もあります。

現在の「東奥丸」(140トン)は4代目ですが、平成18年度いっぱいまで廃船となることが決まっています。それ以降は開運丸と青鵬丸の2隻体制

となりますが、引き続き海洋観測、資源調査及び資源評価等に対応できるような運航をはかっていきたいと考えています。



みさご丸 帆装図

○試験船のリスト

No.	船名	トン数	馬力数	時期
1	大平丸			1900
2	第二大平丸			1901
3	みさご丸	19.89	25	1909～1915
4	斗南丸			1914
5	白鷗丸(初代)	19.88		1916～1918
6	海鷗丸	11.6	12	1917～1919
7	第二海鷗丸	16	12	1919
8	瑞鷗丸(初代)	14.55	25	1921～1950
9	魁丸	57.87	D100	1922
10	岩木丸	54.43	25	1924
11	東奥丸(初代)	19	50	1928～1958
12	青森丸	185.88	D330	1934
13	白鷗丸(2代目)	50.34	D100	1936
14	第2白鷗丸	38.43	D100	1949～1958
15	瑞鷗丸(2代目)	30.42	D91	1949
16	東奥丸(2代目)	38.35	D120	1959
17	幸洋丸	121.22	D600	1962
18	瑞鷗丸(3代目)	40.81	D170	1966
19	青鵬丸(初代)	19.99	D170	1969
20	東奥丸(3代目)	134.47	D550	1974～1990
21	開運丸(初代)	299.56	D1600	1978～1993
22	青鵬丸(2代目)	56	D250	1983～1998
23	東奥丸(4代目)	140	D1200	1990～
24	開運丸(2代目)	208	D1400	1994～
25	青鵬丸(3代目)	65	D1000	1999～